平成３０年度　岡山県立倉敷琴浦高等支援学校　学校評価書

校長　堀部　淑惠

１　学校関係者評価委員名

重松　孝治　　（川崎医療短期大学（現：川崎医療福祉大学）　講師）
大島　美栄子　（倉敷障がい者就業・生活支援センター　所長）
片沼　靖一　　（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会　会長）
片山　一夫　　（児島産業振興センター　所長）
竹本　浩作　　（ハローワーク児島　統括職業指導官）
三宅　絵美子　（本校ＰＴＡ　会長）

２　学校関係者評価

（１）第１～３回学校関係者評価委員会を実施し、授業参観、意見交換、自己評価アンケート内容検討等を行った。

３　自己評価

（１）生徒のキャリア発達を促す授業の実践・充実

①社会的・職業的に自立し、働き続けるために必要な力を育てる授業づくりに迫るための学習指導案の様式の見直しを行い、校内研究「一人一授業づくり」や公開授業研究会などを通じて、社会的・職業的自立のために必要な３つの力（働く力・生活する力・人と関わる力）を意識した授業実践を推進することができた。

②各種検定へチャレンジできる環境を整えるとともに、皆勤賞表彰や各種検定等の挑戦などの紹介・表彰を通じて、ほぼ全ての生徒の頑張りを生徒・教職員とともに称え合うことで、生徒の自己肯定感や学ぶ意欲、チャレンジ精神の喚起につなげることができた。

③外部の専門家による発達障害の指導支援に関わる校内研修や自立活動シートを基にしたケース検討会、校内特別支援教育コーディネーターによる、指導に困難さがある生徒に対する指導方法等に関するケース会を行うことで、生徒の実態や障害特性をふまえた指導・実践を推進することができた。

（２）地域、関係機関と連携した進路指導の充実

①今年度進路だよりを１０号発行し、時期に応じた内容を発信することができ、校内一体となる進路指導の充実が図られた。

②関係機関と密な連携を図り、組織的なアフターケアを行った。
（就業・生活支援センター同行率７９％）

③ハローワーク、就労支援コーディネーターと連携を図りながら、新規職場開拓ができた。（新規に開拓した事業所：約２０カ所）

④本校ナビゲーションブックを移行支援会議で活用することで、充実した協議を行うことができた。生徒を中心に捉えた支援ネットワーク構築ができている。

（３）楽しく充実した学校生活をサポートする体制の充実

①生徒会が地域貢献活動への参加を積極的に呼びかけ、主体的に活動に取り組むことができた。また、年間を通して行う地域での清掃ボランティア活動も定着しており、多数の生徒が様々な地域ボランティアに参加することができている。

②部活動での取り組みを学校祭等で成果発表することができた。余暇活動につながる社会スポーツや文化活動への参加は、十分ではないが、地域の関係機関から情報を集めることができた。

③生徒理解を深め、カウンセリングスキルを高めるための教員研修を実施した。また、保護者と合同での研修も開催し、保護者との協力体制を作ることができた。

④スマホ等の使用時のコミュニケーションについて生徒の学習の機会を持った。また、専門家による保護者向けの講演会を実施し、スマホ・ネット使用時での適切なコミュニケーションについて保護者も学習する機会となった。

（４）共生社会を推進するための支援体制の充実

①就労支援コーディネーターを中心に近隣の高等学校での就労支援（職場開拓、保護者・生徒と就労支援機関とのコーディネート等）を行った。高等学校に在籍する障害のある生徒の進路指導に対する意識が高まりつつある。

②公開講座では、就労に関する内容と福祉に関する内容を取り上げ、学校内外の方や保護者に対し、センター的な役割を果たすことができた。

③就労支援コーディネーターを中心に、外部機関とも積極的に連携し協力を得ながら、本校生徒の困難さを解決するよう支援することができた。